

社団法人 日本補綴歯科学会 *Japan Prosthodontic Society*

発行人 平井敏博 編集 広報・社会連携委員会

〒 170-0003 東京都豊島区駒込1-43-9

社団法人 日本補綴歯科学会

Tel 03-5940-5451 Fax 03-5940-5630



## Letter for Members No.29 2008

<http://www.hotetsu.com/> 2008.7.10 発行

### 《コンテンツ》

国際補綴歯科学会名古屋2008レポート……1	関連学会案内 ……………17
支部学術大会予定一覧 ……………14	お知らせ ……………19
関連学会報告 ……………15	

# 国際補綴歯科学会名古屋 2008 レポート

## 社団法人日本補綴歯科学会第117回学術大会 第1回日本・中国・韓国補綴歯科学会共催学術大会

### 第 117 回学術大会の総括



社団法人日本補綴歯科学会第 117 回学術大会  
大会長 田中貴信

今般は、第 117 回学術大会、第 1 回日本・中国・韓国補綴歯科学会共催学術大会のお世話係を勤めさせていただきましたが、諸兄のご協力によりまして、大過なく終了することが出来ました。主管校、愛知学院大学の歯科補綴学の 3 講座の医局員 97 名を代表し、厚く御礼申し上げます。

今回は中国・韓国補綴歯科学会との初めての共催学会としてのエポックメイキングの大会の趣旨が広く理解され、日本歯科医師会を始めとする 8 団体からのご後援と、関連企業 68 社のご協力をいただきましたが、本大会が今後の日本補綴歯

科学会活動の新たな礎の一つとなるならばうれしく思います。

季節的には生憎入梅ということで、当初足元の不安も御座いましたが、何とか酷い状況は回避でき、ほっとしております。お蔭様にて、懇親会には愛知県の神田真秋知事、日本歯科医師会の大久保満男会長、日本歯科医学会の江藤一洋会長をはじめとする総勢 430 名を迎えた賑やかな席となりました。また、学術大会には海外からの参加者 106 名はもちろんのこと、市民公開講座への参加市民、展示業者など全て加えますと 2,802 名と、いずれも満足すべき数となりました。皆様方の熱いご支援のお蔭をもちまして、充実した学術大会となりましたこと、係として大変うれしく思います。

一応今回の大役は何とか果たさせていただいたものと考えておりますが、様々な形でご協力いただきました多くの関係者に心から御礼申し上げます。

末筆ながら、社団法人日本補綴歯科学会の一層の発展と次回の京都大会のご盛会を心から祈念し、名古屋大会の御礼とご報告に代えさせていただきます。

## 日・中・韓共催セッション基調講演

座長：古谷野 潔（副理事長，Japan Prosthodontic Society）

講師：Sang-Wan Shin（会長，Korean Academy of Prosthodontics）

「Current Perspective and Future of Prosthodontics」

Hailan Feng（会長，Chinese Prosthodontic Society）

「Developing a Mandibular Movement Simulation System」

今回の第 117 回大会は、愛知学院大学の田中貴信教授を大会長として、本会と交流協定を結んでいる中国、韓国の補綴歯科学会を迎え、国際補綴歯科学会 2008 名古屋と題して開催されました。これまで、日本・中国・韓国の補綴歯科学会はそれぞれ二国間の交流をしてきましたが、本会の呼びかけによって三国間交流に発展させることになり、今回、記念すべき初の日中韓三カ国の共催学会が実現しました。この機会に韓国補綴歯科学会の Shin 会長および中国補綴歯科学会の Feng 会長に基調講演をして頂きました。Feng 会長は「Developing a Mandibular Movement Simulation System」と題して、下顎運動シミュレーションシステムの開発について講演されました。また、Shin 会長は「Current Perspective and Future of Prosthodontics」と題して、補綴歯科の将来展望について、最近の欧米諸国の動向を踏まえて講演されました。今後われわれが進むべき道について、一つの有意義な示唆をいただくことができました。今後は 2 年に一度、三カ国が持ち回りで日・中・韓共催学会を開催することになっています。次回は 2 年後の 2010 年に北京で開催される予定です。（座長 古谷野 潔）

## 特別講演 認知症の最新情報

座長：服部正巳（愛院大）

講師：遠藤英俊（国立長寿医療センター）

今般、「咬合・咀嚼が創る健康長寿」のテーマのもと国際補綴歯科学会名古屋 2008 が日本のほぼ中心の地名古屋で開催され、特別講演として認

知症の診断・治療に関しては第一人者である国立長寿医療センター包括診療部部長の遠藤英俊先生をお招きしてご講演をしていただきました。私も歯科医師にとりましては、これからの高齢社会で患者により良い治療を行うためにも、また、在宅高齢者の歯科治療を行う際にも、認知症についての知識は当然必要になると考えます。認知症に関しては、特に早期発見・診断が重要であります。軽い段階で診断できれば、本人もある程度自分が認知症であることが理解できますが、病状が進行してしまうと、その自覚は刹那的なその瞬間、瞬間だけになってしまいます。その結果、本人や家族の負担が増大し、あってはならないことですが、虐待などの可能性も生ずることになります。さらに、少しでも発症を遅らせることが医療費の抑制や患者介護の軽減にもなりますが、アルツハイマー型の認知症であれば、アリセプトという薬剤で 1~2 年発症を遅らせることが可能となっている、などのお話を聞くにつけてもこの講演の価値が十分あると感じました。また、認知症が発症した場合は、社会全体でケアしていくことになりませんが、患者を取り巻く社会環境の改善や、国や地方の施策に至るまで、EBM を踏まえた研究成果も解説していただき非常に勉強になった先生方も多かったのではないかと推察します。

講演を聴いた後、われわれ歯科医師も積極的に認知症患者の口腔環境を改善していかなければならないと痛感しました。ただ、残念なことは貴重な講演にもかかわらず聴衆が少なかったことが悔やまれ、演者の遠藤先生に申し訳なかったと思いました。（座長 服部正巳）

## 国際シンポジウム

### Tissue-biomaterial Interface Research for Prosthodontic Dentistry

座長：佐々木啓一（東北大）

講師：Donald M Brunette（The University of British Columbia）

「Optimizing Tissue-implant Interfacial Interactions by Implant Surface Topography」

Joke AJ Duyck（Catholic University of Leuven）

「Mechanobiology of the Bone-implant Interface」

吉田靖弘（岡山大）

「Interfacial Control for Functional Reconstruction of Human Hard Tissues」



左から佐々木先生、吉田先生、Dr. Brunette、Dr. Duyck、古谷野先生

今大会では、海外からマテリアル関連の研究に携わっている2名の研究者をお招きしました。お一人はインプラント・マテリアルの表面微細構造による細胞反応の制御において世界をリードするブリティッシュコロンビア大学（カナダ）の Donald M Brunette 教授、もうお一人は荷重負荷下でのチタン・インプラントのオッセオインテグレーションならびに骨形成反応の研究を進めている新進気鋭の女性研究者、Joke AJ Duyck 教授（カンリックリューベン大学：ベルギー）です。あらためて言うまでもなく、補綴歯科治療は、さまざまなバイオマテリアルを駆使して顎口腔系の形態と機能の回復を図ることに特徴を有し、その治療の成否は、バイオマテリアルと生体とのインターフェイスにおける生体反応によって決定されるといっても過言ではありません。

本シンポジウムは、「歯科補綴学における生体とインプラントのインターフェイス研究」という新しい観点から歯科補綴学を考えることを目的に、海外のお二人とインターフェイスをキーワードとする研究にいち早く取り組んできた吉田靖弘准教授（岡山大生体理工学）を演者として行われました。それぞれの演者からは、インターフェイスにおける生体反応、インターフェイス研究の意義に関する最新の研究知見をご呈示していただきました。会場には関連研究を既に展開している先生方、メカノバイオロジーに関心のある先生方にお集まりいただき、会場からの活発な質問、意見も交え

て活発な、かつ有意義なディスカッションが行われました。

本シンポジウムは、現在の生命科学、生体医学領域でのリーディングエッジであるメカノバイオロジーを見据えた歯科補綴学研究の新たな展開を対象としたものであり、世界をリードする研究者を交えてこのような視点からのシンポジウムを開催できたことは、本学会の先見性、先進性を世界に発信するものです。この点は Brunette 教授、Duyck 教授もまさに同意見であり、皆木学術委員長を始めとする学術委員会の先生方の慧眼に感謝致します。しかし一方では、メイン会場で併催企画なしに開催したにもかかわらず聴衆は決して多くはなく、本学会会員の意識、学術指向と企画側の意向との乖離も感じられました。これらの点は、今後の学術大会企画に反映させていく必要があるものと考えております。（座長 佐々木啓一）

#### 国際セミナー Teaching Critical Thinking

座長：矢谷博文（大阪大）

講師：Donald M Brunette（The University of British Columbia）

近年、医科のみならず歯科においても根拠に基づく治療（Evidence Based Medicine：EBM）が求められています。このEBMは、1）患者の問題を定式化し、2）情報を収集し、3）得られた情報の批判的吟味を行い、4）情報を患者に適用するという4段階からなります。この第3段階である文献的エビデンスを批判的に吟味し、信頼できる情報を抽出する能力を涵養することは良質の歯科医療を国民に提供するうえできわめて重要であ

「GC」

ジーシーインプラントシステム™ Re（アール・イー）  
2つのシステムが臨床の幅を広げます。

GC IMPLANT SYSTEM Re  
external implant  
SETiO   
internal implant  
GENESiO 

高度管理医療機器 20500BZ200868000 ジーシーインプラント  
高度管理医療機器 21400BZ200102000 ジーシーインプラント Re  
高度管理医療機器 21400BZ200068000 ジーシーインプラント Re

株式会社 ジーシー [www.gcdental.co.jp/](http://www.gcdental.co.jp/)



り、そのような能力をもった学生や若手歯科医師を育てることはわれわれに課せられた重大な使命であると考えられます。本国際セミナーでは、「Critical Thinking」の著者 DM Brunette 先生にご著書と同タイトルでご講演をいただきました。すなわち、Critical Thinking の教育にあたっては、1) いかに歯科にエビデンスが不足しているかを説き、それゆえ生涯学習が重要であること、2) 具体的な文献や歯科材料などの宣伝を題材として実際に学習者に Critical Thinking を行わせること、3) Critical Thinking は少人数のチュートリアル形式でやると有効であること、4) 学習者は過剰に批判的になってはいけないこと、欠点の多い題材であっても何らかの価値のある情報は得られること等のフィードバックを必ず行うこと、5) 学習者の達成度を適切に評価するツールをもつことなどが重要であることを話していただきました。

国際シンポジウムと異なり同時通訳がないうえに、一度聞いただけでは理解の難しい教育に関する専門用語等が多く使われ、レベルが高すぎると感じる面もありましたが、学生教育に携わるものにとっては大変有意義なセミナーでした。

(座長 矢谷博文)

### **シンポジウムⅠ** 補綴歯科治療の何が問題で、なにを解決するのか？

座長：市川哲雄（徳島大）

講師：櫻井 薫（東歯大）

「歯の欠如に対する補綴歯科治療に関するクリニカルクエスチョンの調査結果と分析」

森本達也（東海支部）

「日常臨床での診察、検査の記録とその活用から」

窪木拓男（岡山大）

「補綴治療の難易度を測定するプロトコルの信頼性の検討—エビデンスに基づく補綴診断をめざして—」

患者の視点に立った、安全・安心で質の高い医療を提供するためのシステム構築の一環として、診療ガイドラインの作成が進められています。EBM に基づく診療ガイドラインの基本構造は、「臨床上の疑問の明確化」「エビデンスの検索・評価」および「推奨度の決定」の3段階からなっ

ています。一方、本学会は、歯質、歯の欠損に伴う補綴治療の難易度を把握するために「症型分類」を提案し、その信頼性、妥当性を検討する多施設コホート研究を進めています。

本シンポジウムではまず櫻井 薫先生（東歯大）に、補綴歯科治療の臨床上の疑問（クリニカルクエスチョン：CQ）に関するアンケート結果から、CQ を診察と検査、材料、咬合、術式、その他のカテゴリーと補綴装置の種類で分類して提示していただきました。そのうえで、CQ は何か、どのようなことを疑問に思っているのかを明らかにし、診療ガイドラインではどのようなものが CQ になるかを検討しました。

次に、森本達也先生（東海支部）に、24 年間の臨床のなかで集積された診察、検査データを紹介していただくとともに、そのデータを集めるようになった経緯やデータの利用方法などについて説明していただきました。日常臨床で病態把握、診察と検査の集積はどのような意味があるのか、どんなことに役に立つかについて検討しました。

最後に、窪木拓男先生（岡山大）に、補綴治療の難易度を測定するためのプロトコルの信頼性・妥当性を検証するためのトライアルの概要とプロトコルの信頼性について説明していただき、CQ、症型分類、エビデンスの集積を通して、補綴歯科治療の臨床 outcome を向上させる方策を検討しました。

以上のように本シンポジウムでは、補綴歯科治療で何が問題で、なにを解決するのか、臨床 outcome をどのように向上させるのかの診療ガイドライン部会のプロセスをシンポジウム参加者と共有することができ、たいへん有意義なものとなりました。（座長 市川哲雄）

### **シンポジウムⅡ** 大規模災害時の緊急補綴歯科治療

座長：平井敏博（北医療大）

講師：大久保満男（日本歯科医師会会長）

「歯科医療の中心と周縁—歯科医療の新たな可能性を求めて—」

宮村一弘（愛知県歯科医師会）

「大規模災害への備え—愛知県歯科医師会の場合—」

平井敏博（北医療大）

「大規模災害時の緊急補綴歯科治療」

本シンポジウムは、田中貴信大会長の熱き想いと、多大のご尽力によって実現したとのこと。私たちの学術大会で日歯会長と県歯会長が講師としてご登壇くださることは初めてのことです。まさに“Epoch making”な大会であったといえます。

田中大会長は、この企画の意図を次のように語ってくれました。「大規模災害で使用中の補綴装置が突然壊れたり、焼失して困っている方たちに対し、日本補綴歯科学会として何ができるのか、どのような示唆を提示できるのか」、さらには「公益を最大目的とする社団法人である日本補綴歯科学会として、災害時のみならず、ターミナルケアや在宅診療における歯科補綴というものに、一度は真剣に取り組んでみる必要があると思う」と。

大久保会長は講演当日の朝にご自宅のある静岡からお越しくださいました。そして講演では「歯科医療の中心と周縁ー歯科医療の新たな可能性を求めてー」と題し、「生きる力を支援する、生活を支援する医療」としての歯科医療の重要性を強調されました。今回のテーマである災害時の歯科救済活動は、生命維持のためというよりも、むしろ被災者の健康・QOLの観点から不可欠であり、実を射たお話でした。また被災者ばかりではなく、重度の障害をもつ新生児・乳児や救命処置室や「看取りの場」などでの患者への対応など、歯科医師の役割の拡大、すなわち診療室を「中心」とした場合に「周縁」からの新たな動きが起こってきていることを説明なさいました。これらの現状を踏まえ、国民皆保険制度のもとで実施されている「国策」としての歯科医療の再考が必要である旨を話されました。

宮村会長は、「大規模災害への備えー愛知県歯科医師会の場合ー」と題し、「危険（リスク）」と「危機（クライシス）」が別物であること、地元の東海地方での発生が予測されている大震災における「奉仕」と「義勇」について、また「組織内での対応」と「社会への対応」などについて話されました。宮村先生は、1994年4月の名古屋空港における中華航空機事故に際しては身元確認に関する作業現場での指揮を執られたこと、さらに2004年11月からの愛知県歯科医師会における「DNA採取・保管事業」の開始にご尽力されておられることから、真に迫るお話でした。また「備えあれば憂いなし」の言葉の通り、県歯を挙げてのマニュアル作りや訓練の実施等について話され

ました。

最後に平井は、1993年7月に発生した「北海道南西沖地震」の際に義歯を津波によって紛失した方々に対する歯科支援活動に携わった経験をもとに、「健康科学としての歯科補綴学」に立脚した補綴歯科治療の在り方について、考えを述べました。大久保会長の話された「生活を支援する医療」には、まさしく私たちが目指す「健康科学としての歯科補綴学」が基盤となる旨の意を強くいたしました。

3名の講演後には、開業会員の方々を含めて種々の意見や質問が出され、活発なディスカッションがなされました。有意義なシンポジウムであったと思います。この場をお借りして、再度、大久保先生、宮村先生と大会長へ感謝を申し上げます。（座長 平井敏博）

### シンポジウムⅢ 臼歯部修復の審美と強度を考える

（日本歯科保存学会・日本歯科審美学会・日本補綴歯科学会 共催）

座長：中村隆志（大阪大）

講師：宮崎真至（日本歯科保存学会，日大）

「接着技術が支える臼歯部コンポジットレジン修復」

近藤隆一（日本歯科審美学会，東京都）

「VITAPAN CLASSIC を超越した患者の要望とその対応法」

植松厚夫（日本補綴歯科学会，西関東支部）

「ジルコニア臼歯部修復の臨床における現況」

中村隆志（日本補綴歯科学会・日本歯科審美学会，大阪大）

NC VERACIA

ナノテクノロジーと機能的形態が融合した 新人工歯 **硬質レジン歯**

**NC Veracia**

医療用具承認番号 21100BZZ00751

**NC ベラシア アンテリア**

硬質レジン歯（前歯用）1組…¥780 色調：A1、A2、A3、A3.5、B2  
形態：上顎5形態、下顎3形態

医療用具承認番号 21200BZZ00272

**NC ベラシア ポステリア**

硬質レジン歯（臼歯用）1組…¥1,040 色調：A2、A3、A3.5、B2  
形態：上下顎各2種

価格は2002年11月現在の標準医院価格（消費税抜き）です。

世界の歯科医療に貢献する **株式会社 松風**  
本社 ● 〒605-0983 京都市東山区福福上高松町11-TEL(075)561-1112(代)

## 「白歯部修復に使用する歯冠色材料」

今回のシンポジウムは、歯科の臨床で根強い需要をもつ白歯部の審美修復をテーマとしました。本学会の臨床系シンポジウムは補綴関係の演者が中心になって開催されていましたが、歯科保存学会、歯科審美学会を加えた3学会のジョイントシンポジウムとしたことで、参加された本学会会員の方々に、補綴とは違った切り口から白歯部修復についての考え方やテクニックを学んでいただけたのではないのでしょうか。実際のシンポジウムでは、最初に座長（中村）が基礎的な材料の観点から、次に宮崎先生が保存の観点から、さらに近藤先生が審美の観点から、そして最後に植松先生が補綴臨床の観点からそれぞれ講演を行いました。

座長の講演では、白歯部のメタルフリー修復に用いられるレジンとセラミックスについて、材料としての特徴（機械的性質）や白歯部クラウン・ブリッジの力学的な解析結果などについて触れました。ここでは、ファイバー強化のコンポジットレジンやジルコニアなどフレーム材料は極めて高い強度をもつが、この上に積層する歯冠色のレジンやポーセレンの強度はそれほど高くないこと、レジン系材料は歯質に近い性質をもつが、セラミックス系材料は歯質よりも硬くて脆い性質をもつので破折に対する注意が必要であることなどを説明しました。

宮崎先生（歯科保存学会）には、歯質との接着や、歯質の保存に優れた白歯部のコンポジットレジン充填に焦点をあてて講演いただきました。メタルフリーの補綴処置は、良好な審美性をもっていても、歯質保存に優れた方法とはいえません。この点、残存歯質を最大限に活用できるコンポジットレジン充填は、MIのコンセプトに最も忠実な修復であることが再認識されました。従来はメタルインレーを使用していた症例も、多くの場合このコンポジットレジン充填により修復できるそうです。また、欠損があっても、人工歯を隣在歯にコンポジットレジンで接着させて修復する1ユニットのブリッジも印象に残る方法でした。

近藤先生（歯科審美学会）には審美の立場からホワイトニングや新しいセラミックス材料を用いた修復に関してお話いただきました。ホワイトニングは歯を全く削らずに行え、前歯部だけでなく白歯部にも有効であることから、患者のニーズ

が高くなっています。今回の講演で、ホームホワイトニングが有効であり漂白の効果も長期間持続することがよくわかりました。また、漂白後の歯の色を再現したブリーチシェードを備えた新しいシェードガイドが必要であり、これに対応した新しいセラミックス材料が今後普及していくことが予想されます。

植松先生（補綴歯科学会）には、白歯部のメタルフリーブリッジに欠かせないジルコニアを中心に講演していただきました。この数年、セラミックスで白歯部の補綴を行う際には、クラウンだけでなくブリッジにも適用可能なジルコニアフレームが数多く使われるようになりました。ジルコニアはCAD/CAMシステムで加工しますが、システムにより計測や加工法が異なり、それぞれの特徴を考慮した使用法が求められます。ジルコニアを臨床で使用した経験者のアンケートについても報告があり、ジルコニアフレームの破折はごくまれであり、フレーム上に築盛する歯冠色ポーセレンのチッピングを防ぐためフレームデザインや使用材料に工夫が必要であることが明らかになりました。

このように保存、補綴、審美の立場から講演をいただいた今回のシンポジウムは多数の方々に参加いただき、明日からの臨床に役立つ情報を提供できたものと考えております。時間の都合もあり、ディスカッションの時間が少なかったのが残念ですが、また機会があればこのようなジョイントシンポジウムを企画していただければ幸いです。

（座長 中村隆志）

### （公募型）シンポジウム 1

歯科補綴学教育における問題解決型教育の実際

座長：小川 匠（鶴見大）

講師：大久保昌和（日大松戸）

「米国歯科医学教育におけるPBL/CBL教育について」

松香芳三（岡山大）

「学生が患者面接を行い、問題点の抽出と治療計画立案を行うチュートリアルPBL」

小川 匠（鶴見大）

「模型実習、特に支台歯形成における問題解決型教育の応用」





左から大久保先生，松香先生，小川

平成3年に制定された大学設置基準大綱により平成8年度には、全体の約9割の大学においてカリキュラム改革がすでに実施されています。このなかで歯科学教育においても問題解決型を取り入れた試みが報告され、その考え方も各大学なりにアレンジし根付いてきています。ここで、新しく導入した問題解決型教育を実践している大学でその利点や問題点を抽出し討論することから、歯科教育における問題解決型（PBL）の実際を整理してみます。

シンポジウムは大久保講師の南カリフォルニア大学におけるPBL教育の実際を紹介していただき、その手法、利点、欠点の解説、本シンポジウムの目的や意味を明確にいただきました。要約すると、PBL教育とは単に教育法の一手段だけではなく、生涯学習教育としての勉強法であり、その時代や環境に応じた変化に対応していく教育法です。また、具体的な学習目標をもつ勉強、すなわち国家試験などの資格試験に対応する教育法はProblem-based learning、症例検討など目的は明確ですが、その解決法に解答をもたない教育法はCase-based learningとその両者を使い分けることが重要です。次の、松香講師からは、岡山大学における応用の実例について詳細かつ具体的に説明して頂きました。岡山大学で実施しているPBLは、患者様に直接医療面接を行い問診のなかから具体的な問題点を抽出し、その問題点について、文献的考察後、グループディスカッションを行っています。これらの結果から、同じ歯の欠損でも患者により訴えが異なること、エビデンスの検索法、臨床決断法の理解などに効果がみられました。しかし、時間的な問題や学生、チューターに多大な労力がかかるといった問題点が挙げられました。最後に小川からは、鶴見大学の模型実習、特に支台歯形成のスキルトレーニングに問題解決型教育を導入した、その効果について発表しました。教育方法の比較はクロスオーバーデザインを

用いて行いました。その結果、スキルトレーニング後、PBLを行いディスカッションすることから、問題点を抽出し、トレーニングを行うことが支台歯形成の上達に影響することが示唆されました。本シンポジウムではアメリカで行われているPBLの紹介から本邦で行っているPBLの実際を比較し、その現状について検討を行いました。両国で行われているPBL教育は国民性の違いが若干の相違を感じました。これは、大久保先生の講演のなかで述べられたように問題解決型教育は日本の土壌にとけ込んでアメリカのそれとは少しずつ形を変え対応し、根付き始めているのではないかと思わせるシンポジウムでした。（座長 小川 匠）

### （公募型）シンポジウム 2

### Bench to Clinic

一歯科領域における  
特許・実用化に向けた  
取り組み

座長：二川浩樹（広島大）

講師：二川浩樹（広島大）

「塩基性抗菌性ペプチドの応用と固定化抗菌剤を用いた洗剤の開発の2つの事例から」

今里 聡（大阪大）

「抗菌性接着システムの実用化—新規材料開発の光と影—」

今より10年前の平成10年に大学等技術移転促進法が制定され、以来、大学などのシーズ活用のため各地でTLOが設立され、産学官連携研究の推進および関連の予算が組まれるようになりました。

産学官連携の趣旨は、アメリカのシリコンバレー政策を模倣し、大学で創出された優れた研究シーズを特許出願し、実用化を行うことで大学は

Happy Smiles & Heartful Communication

デンタルエステをはじめませんか MORITA

- 審美性を追求し、自然感のある透明性と優れた色調再現性を実現しました。
- 操作性と研磨性を向上しました。
- 専用のガラスファイバー「EGファイバー」を用いることで、メタルフリーブリッジの製作を可能にし、臨床用途を拡大しました。

ハイスリッド セラミック  
エステニア® C&B

■標準価格 スタンダードセット 128,000円  
■医療機器承認番号21500BZZ00534

製造販売元 クラレメディカル株式会社  
販売元 株式会社モリタ 東京本社 東京都台東区上野2-11-15 T110-8513 TEL-03-3834-6161  
大阪本社 大阪府吹田市里水町3-33-18 T564-8650 TEL-06-6380-2525

●掲載商品の標準価格は、2006年4月21日現在のものです。  
●標準価格には消費税等は含まれておりません。

www.dental-plaza.com

知財収入によって研究費をまかない、企業側も収益をあげ、いわゆる Win-Win の関係を築き、独立法人化した大学の独立採算性と経済の活性化を同時にはかろうというものです。近年、産学官連携事業の予算は、大きくなりつつあり、研究費獲得には、ぜひ必要な分野です。また、文部科学省は、産学官連携、特に医学系の産学官連携の重点化を目標として掲げ、ライフサイエンス分野における機器開発、研究開発の方針を打ち出しています。

このような背景を踏まえて、講演は、まず二川から座長として、産学官連携の背景とその重要性について述べさせていただきました。引き続き、講師の今里先生に、医療機器や歯科領域におけるの発明～実用化までの道のりで避けては通れない「薬事法」について、ヨーロッパ、アメリカ、日本での違いをわかりやすく説明していただきました。最後に二川が、「どのような発明が特許になるのか」「特許請願～特許取得までに必要な手続きや手順」「特許請願後に、どのようにして実用化まで向かっていくのか」について講師として事例を挙げながら説明させていただきました。

補綴歯科学会の新しい取り組みとしての公募型シンポジウムの一つであります。本シンポジウムが、今後、会員の先生方の研究成果を、産学官連携事業や大型予算の獲得に結びつけるきっかけになればと思っています。（座長 二川浩樹）

### **（公募型）シンポジウム 3** 皮膚科と歯科の連携による皮膚疾患治療

座長：村上 弘（愛院大）

講師：鶴田京子（藤田保健衛生大）

「皮膚疾患と金属アレルギー」

池戸泉美（愛院大）

「歯科医師による皮膚疾患治療」

最近、全身疾患と歯科との関わりが注目されています。そのなか、皮膚科領域でも掌蹠膿疱症や貨幣状湿疹などの一部に歯性病巣感染や歯科用金属アレルギーが関わっているのではないかと疑われています。ところが、これらの関わりには一部の皮膚科医や歯科医が試行錯誤をしているにとどまり、十分に認識されているとはいえない状況です。そこで、今回のシンポジウムは日頃、金属アレルギーをご専門に活躍されている 2 名に講演していただきました。まず、鶴田先生には皮膚

科の立場から、①金属アレルギーによって起こる疾患にはどのようなものがあるか、②診断をどのようにつけているか、③治療はどのようにしているか、④歯科との連携はどのようにしているか、⑤予防および患者説明などについてお話をさせていただきました。続いて池戸先生には歯科医の立場から、①金属材料は歯科治療に不可欠であること、②口腔内における金属腐食と溶出について、③口腔内に限らず、全身症状としても現れること、④皮膚疾患は金属アレルギーだけでなく、歯周病など歯性感染症によっても起こることなどをお話しいただきました。また、愛院大歯学部附属病院では年間 100 人以上が口腔金属アレルギー外来を受診するなど、今後歯科関連の皮膚疾患を訴える患者の増加が予測され、歯科医、皮膚科医双方の立場の理解、パッチテストや連携の有り方などを考えさせられる有意義なシンポジウムとなりました。（座長 村上 弘）

### **研究セミナー** 歯科補綴学の統計解析—過去の論文を再考する—

座長：田上直美（長崎大）

講師：横山徹爾（国立保健医療科学院）

「過去の投稿論文に学ぶ受理される統計解析」

田上直美（長崎大）

「原著論文と統計」

学術大会の研究セミナーで統計を扱うのは本大会で 4 回目を数えます。1 回目は統計学基礎、2 回目は応用、3 回目は研究計画、そして 4 回目の今回は「歯科補綴学の統計解析—過去の論文を再考する—」と題し、論文を書く際の統計学的要点に遂に取り組むこととなりました。

まず、田上（長崎大）より「原著論文と統計」について総論的注意事項を述べさせていただきました。4 回目のご講演をお引き受けいただいた横山徹爾先生（国立保健医療科学院）には、「過去の投稿論文に学ぶ受理される統計解析」というタイトルで、過去の歯科補綴学論文が受理されるまでの統計学的経緯をご説明いただきました。

セミナーでは、事前に応募いただいた補綴系論文のなかから、「材料試験での多群間の差の検定」「QOL と義歯による機能との関係」「総義歯の総合的な状態の量的評価」「顎の動きと脳血流の変化との関係」という、系統の異なる 4 論文を選択させ



ていただきました。短時間で多くの内容を網羅することとなりましたが、横山先生にはいつものようにクールかつ簡潔にご説明いただきましたので、若手の先生にも理解していただけたと推察します。本セミナーは、とにかく聴講される先生が皆熱心というのが特徴的で、横山先生がご講演終了後に質問攻めに遭うのも恒例となりました。VTR シンポでもたくさんの先生が真剣にメモを取られていて、座長兼講師は会場の隅で思わず涙ぐんでしまいました。

今回の「過去の投稿論文」、公開したくないとおっしゃる先生が多いのではと心配しておりましたが、幸いにも多くの先生方が快くご協力下さいました。時間の都合上全論文を紹介することができませんでしたが、先生方のお力無しでは本セミナーは成立致しませんでした。この場を借りまして深く感謝申し上げます。本当にありがとうございました。（座長 田上直美）

#### **教育セミナー** 患者の行動を変えるコーチング・コミュニケーション

座長：荒木章純（愛院大）

講師：柳澤厚生（杏林大）

コーチングとは 1990 年代に始まり、現在米国では、多くの超一流企業では必ずといってよいほど多数のコーチが活躍し、企業の業績が伸びているといわれています。本邦でもコーチングの草分け的存在でもある杏林大学・柳澤教授にご講演をいただける機会を学会のご援助でもつことができました。コーチングとは「自ら考え、自ら決断し、自ら行動を起こすように促すコミュニケーション」と定義されています。このコミュニケーションについて、多くの事例を提示され、具体的方法にまで講演の内容が及んだことは、聴講された会員諸兄にとって、非常にわかりやすく、「今日からやれそう！」と思える内容ではなかったかと感じました。対象が患者のみではなく、教育を行っている教員にとっても、学生や研修医に対する指導の一助にもなると思われます。日常特に意識していなかったコミュニケーションが、いかに重要であるのか。またその意識をもったときの効果は、多くを考えさせるご講演であったと思います。

（座長 荒木章純）

#### **臨床スキルアップセミナー**

リライン材の正しい使い方と臨床効果

座長：原 哲也（岡山大）

講師：村田比呂司（長崎大）

「材料学的な整理と使い方」

木本克彦（神歯大）

「軟性リライン材の臨床効果について」

本セミナーは平成 19 年度に日本補綴歯科学会から発行された「リラインとリベースのガイドライン」を引き継ぐ形で計画されました。現在、多種多様なリライン材が開発されており、日常の臨床において、材料の選択とその適応について若い先生方にはとまどうことが多いのではないかと思います。そこで本セミナーでは村田比呂司先生（長崎大）には材料学的な立場からリライン材の基礎、物性、使用法等について、木本克彦先生（神歯大）にはリライン材を用いた臨床的評価を中心にご紹介いただきました。1 日目最後のセッションではありましたが、会場はほぼ満席で立ち見も出るほどの盛況ぶりでした。

まず、村田先生からは、リライン材を適用する場合には、ティッシュコンディショナーによって義歯床下粘膜をできるだけ健康な状態に回復すると同時にダイナミック印象を行い、フラスク埋没およびリライン用ジグを用いた間接法によるリライン材の適用が有用であることを呈示いただきました。また、アクリル系材料では緩圧性は期待されるが経時的な材料の劣化がみられる一方、シリコン系材料では緩圧性は少ないが耐久性を有することが示され、その適応方法についての解説がありました。

次に、木本先生からは軟質リライン材に対する無作為化比較対照試験の結果を呈示いただき、軟質リライン材を用いた有床義歯では、特に下顎において患者の満足度が高いこと、調整完了までの総治療時間が短いこと、粘膜面の褥創出現部位数が少ないこと、咀嚼値や顎機能検査項目が良好であることなどの解説がありました。

本セミナーは、超高齢社会を迎えた日本において、リライン材の種類と特徴を理解して適用すれば義歯装着者の QOL の向上に寄与することが可能であると考えさせられる内容でありました。

（座長 原 哲也）

## 歯科衛生セッション

### 補綴歯科臨床における歯科医師・歯科衛生士の協働のあり方を探る

(日本歯科衛生士会・日本補綴歯科学会 共催)

座長：下山和弘 (医歯大)

講師：金澤紀子 (日本歯科衛生士会)

「歯科臨床における歯科衛生士業務の確立のために」

福岡幸子 (福岡歯科医院)

「かかりつけ歯科医院のかかりつけ歯科衛生士をめざして」

松下和子 (愛院大附属病院)

「歯科衛生士が行うセルフケアへの支援」

藤原 周 (朝日大)

「歯科医師が望む歯科衛生士の役割」

下山和弘 (医歯大)

「歯科衛生士教育の現状とこれからの歯科衛生士の役割」

今回のシンポジウムでは歯科医師と歯科衛生士の協働をテーマとさせていただきました。医療や介護の現場では、チームケア、専門職の協働の重要性が指摘されています。補綴歯科治療が国民の Quality of Life の維持・向上にさらに寄与するために歯科医師と歯科衛生士の協働について考えてみることにしました。

最初に下山から、歯科衛生士の「十分な知識と経験、技能」の必要性、そのための教育の重要性を、さらに歯科医師と歯科衛生士の協働関係の構築について説明させていただきました。「生活の場に入っていける」「専門職と協働できる」「口腔内を中心にトータルに健康をみていく」ことが今後の活躍の場の拡大につながると指摘させていただきました。

藤原先生は歯科医師、歯科衛生士、歯科衛生士学校学生を対象に調査を行った結果から興味ある考察をされました。その一部を紹介いたします。歯科衛生士の主たる業務は歯科予防処置と考えられているが実際には歯科診療補助が中心となっていた。しかし、歯科診療補助は単なるアシスタント業務ではないことを認識し、そのスキル・地位向上が診療内容の向上につながると述べられました。また歯科衛生士のコンサルテーション能力の必要性も指摘されました。

福岡先生は実践例から「歯科医師と歯科衛生士

の協働により、より良い歯科医療の提供ができる」「患者と医療者の十分なコミュニケーションにより、口腔衛生の維持ができる」ことを示されました。患者からの「私が死ぬまで私の歯をよろしく」という言葉は最大の賛辞と思います。

松下先生は補綴科と同じフロアの歯科衛生士が行っている業務（患者による口腔管理の指導、PMTC、歯科衛生士によるプロフェッショナルケアなど）について説明し、歯科衛生士と補綴科歯科医師との協働が有効なことを示されました。

金澤先生は歯科衛生士法の歴史的な変遷を説明し、歯科臨床の場の主要な業務である「歯科診療の補助」の法的理解が進まなかったことがチーム医療の一つの壁になっていると指摘されました。主治の歯科医師の指示を受けて歯科衛生士が行う相対的歯科医行為を歯科衛生臨床と位置づけ、体系化することの必要性を示されました。

歯科衛生士が置かれた現状と問題点を明らかにするとともに実践例から解決の方向性を示すことができた有意義なセッションとなりました。

(座長 下山和弘)

## 歯科技工セッション

### 審美修復における補綴歯科専門医と歯科技工士(認定士)とのコラボレーション

(日本歯科技工学会・日本補綴歯科学会 共催)

座長：末瀬一彦 (大歯大)

講師：山田和伸 (カस्पデンタルサプライ)

「審美修復における補綴歯科専門医と歯科技工士とのコラボレーション」

六人部慶彦 (関西支部)

「予知性の高い審美治療のための歯科医師と歯科技工士との関係—歯周組織の安定を目指して—」

末瀬一彦 (大歯大)

「審美修復に必要な情報連携」

現在、日本補綴歯科学会では「専門医制度」が、日本歯科技工学会では「認定士制度」が発足し、それぞれ 1,200 名および 280 名が取得しています。歯科医師と歯科技工士がお互い専門的な立場から良好な連携を得るためには、患者さんに提供する補綴装置の形態や機能についてイメージをもち、情報を共有することが重要です。特に高品質

な「審美修復物」を製作し、提供するためには両者の専門特化された知識と技術力が不可欠です。今回の歯科技工セッションでは、それぞれの立場で高い専門性を有し、情報交換を巧みに実現し、その成果を患者さんに提供している2人の演者に講演をお願いしました。

歯科医師（補綴専門医）六人部慶彦先生は、健康的な歯周組織をコントロールし、美しい口腔を回復し予知性をもって維持させるためには、歯科医師および歯科技工士双方が熟練された技術を駆使し、明確な情報を伝達し合うことが重要ですが、歯科技工士の製作される美しい修復物だけに委ねているのでは審美修復における長期的良好な予後は期待できません。事前に個々の患者の歯周組織を成熟させ、辺縁歯肉の対称性、歯間乳頭の再建など歯周組織に調和させるためのクラウンに与える形態の情報は歯科医師側から提供しなければならないと述べ、自らの症例をもとに歯周組織に調和したプロビジョナルレストレーションの重要性、クラウンの形態とフィニッシュラインの設定位置などについて言及されました。また、歯科技工士（認定士）山田和伸先生は、歯科医師と歯科技工士間のコミュニケーションを図るうえで、作業模型だけでは不十分で色調や形態の情報はもちろん、患者の希望とそれに近づくために行ってきた治療計画や治療内容を可能な範囲で共有し、それをかたちとして実現することが両者に課せられた役割であると述べられました。審美修復においては機械的な測色結果を含む色調再現の手助けとなる情報、正中線や切縁ラインを決定するための情報、術前やプロビジョナルレストレーションの状態を再現した参考模型、あるいはレントゲン写真などの生体情報は重要です。最近のCAD/CAMシステムの出現によってより高品質な修復物の製作が可能となってきましたが、それぞれの症例に応じたマテリアルの選択も両者の情報を共有することによって選択されます。

審美修復においては、歯科技工指示書1枚で情報のすべてが伝達されるものではありません。必要に応じて、歯科医師は患者を「診て」、歯科技工士は患者を「観て」、修復物に対する共通イメージをもち、互いの情報交換を十分に行うことが成功への秘訣です。（座長 末瀬一彦）

## カレントトピックス 接着ブリッジの臨床とガイドライン

座長：佐々木啓一（東北大）

講師：寺田 善博（九州大）

矢谷 博文（大阪大）

接着ブリッジの材料や技法、技術はわが国の研究者や臨床家を中心となり、発展させてきたという世界に誇るべき歴史があります。本年4月の歯科診療報酬の改定により条件付きで接着ブリッジがようやく健康保険に導入されたことを機会に、日本補綴歯科学会として接着ブリッジに関する正しい情報を会員に提供することを目的として、急遽カレントトピックスというかたちで企画されました。

まず九州大学の寺田善博先生により、今回の接着ブリッジの保険導入に至る背景をお話いただきました。すなわち、平成18年10月1日より、いわゆる混合診療を例外的に認める特定療養費制度が見直され、「評価療養」と「選定療養」に再編成されたのを機に、評価療養の一つである高度先進医療（現在は先進医療に改変）を保険導入するかどうか日本歯科医学会により見直されたこと、高度先進医療として4大学で実施されてきた接着ブリッジは中医協により優先的に保険導入が適切であると評価された24の先進医療の一つに認められたこと、これに当学会が寺田先生を委員長としてまとめた接着ブリッジのガイドラインがその有効性を証明するための大きな支えとなったことが説明されました。

次いで矢谷（大阪大）が接着ブリッジの歴史と文献的な生存率を紹介したあと、接着ブリッジのガイドラインの内容について7つのクリニカルクエストに応える形で詳細な解説を行いました。

緊急の企画であったためか聴衆の数が非常に少なかったことは残念でした。（講師 矢谷博文）

## 市民公開講座 高齢期の快適な食生活のために

座長：佐藤裕二（昭和大）

講師：小野寺定幸（社団法人愛知県栄養士会）

「高齢者の忘れてはならない栄養問題のポイント」

上谷律子（財団法人日本食生活協会）



「食べることは生きること」

竹内一夫（愛院大）

「義歯で快適に食べる」

高齢期にあっては、食べることは最大の楽しみであり、健康を維持して生き生きと生活するうえで不可欠です。ではどのようにすれば快適な食生活が送れるかについて、聴講者の皆様にわかりやすくお知らせし、これから十分に活用していただきたいということで企画されました。愛知学院大学補綴学講座の皆様の努力により会場には200名近く集まっていたいただき、熱心にメモを取られる方が多くいらっしゃいました。

まず、座長から本講座の趣旨を申し上げ、講師の先生方にお話しいただきました。小野寺先生は、食欲があるかどうかが生きる力に直結していること、栄養の基本はまずエネルギーであり、たんぱく質を摂り、野菜果物をよく噛むこと、水分をこまめに1日を通して補給することを話され、栄養士からみた食事のあり方を解説していただきました。上谷先生は、実際の食事の工夫について話され、厚生労働省からも食事バランスガイドが紹介されるなかで、伴侶をなくされた男性の食事自立支援についても語り、低栄養に陥る危険性について述べられました。また、高齢者向け配食サービスの進化についても触れ、栄養確保とともに食がコミュニケーションに果たす役割などについて説明されました。竹内先生は義歯補綴学の視点から、義歯の果たす役割、欠損補綴の大切さ、義歯装着者のための食事の実際を調理法も交えて具体的に提示して、多くの方が義歯で食事を楽しみ、人生を豊かにしていることを紹介してくださいました。補綴の周知がまたひとつ広がりました。

質疑応答では、具体的な献立、歯科医師と義歯、介護と歯科の係わりなどについて意見交換されました。多くのご高齢の方にお集まりいただくと、歯の欠損や口腔状況は多様ですが、食事を同じく摂るということについてはそれぞれが補綴に収束してくるわけです。良質な補綴治療を双方向で望みつつ、大変有意義で好評のうちに閉会しました。

（座長 佐藤裕二）

## 専門医研修会

顎機能障害の診断と発症原因を考慮に入れた治療

座長：松香芳三（岡山大）

講師：松香芳三（岡山大）

「顎機能障害に対する一般的な診断と治療法」

藤澤政紀（明海大）

「発症原因をコホート調査から紐解く」

馬場一美（昭和大）

「パラファンクションと顎機能障害の発症」



本研修会では顎機能障害の発症原因を考慮に入れた治療法をわかりやすく、簡潔に解説していただきました。

まず、松香芳三が顎機能障害の日本顎関節学会ならびに Research Diagnostic Criteria for Temporomandibular Disorders の症型分類を紹介しました。その後、筋痛と関節痛の臨床症状に対応する一般的な治療法を解説しました。その内容は、家庭内療法、理学療法、ストレッチ、スプリント療法、消炎鎮痛薬、抗うつ薬、筋弛緩薬、トリガーポイントに対する局所麻酔薬注射、顎関節注射、関節腔内洗浄などです。

藤澤政紀先生には、咬合位が関与している臨床症例や舌のパラファンクション症例を報告して頂いた後、5年間の前向きコホート調査から理解できた発症原因（側方運動時のガイド、咀嚼筋疼痛感受性、不安傾向が高い、情緒不安傾向など）を紹介していただきました。その結果、ストレスを感じやすい特性が、ストレス反応としてのブラキシズム、クレンチングなどのパラファンクションを惹起させ、顎機能障害を引き起こす連鎖を形成する可能性が示唆されることをわかりやすく解説していただきました。

馬場一美先生にはパラファンクション（睡眠時ブラキシズム、tooth contacting habit）と顎機能障害との因果関係に関して、明らかになっていることを整理していただき、ブラキシズムの関与が疑われる患者への歯科的な対処方法について解説

していただきました。睡眠時ブラキシズムに対しては、スプリントが主な治療法ですが、長期間使用後には効果が減少することが報告されています。その後、咬合感覚異常症患者を診るうえで補綴専門医に要求される臨床判断能力についてもわかりやすく解説していただきました。

その後、約 30 分間のディスカッションを行いました。参加者は非常に多く、盛況で意義深い研修会でした。(座長 松香芳三)

### 第 1 回日本・中国・韓国補綴歯科学会共催 学術大会の総括

国際渉外委員長 佐藤博信

本学会の基本方針として、国際交流の推進を掲げているところで、韓国、中国、ならびにインドとは国際交流協定をすでに結んでいたところで、昨年、東アジア地域での実質的活動をさらに推進すべく、日本、韓国ならびに中国で話し合いを行い、今回、第 1 回日本・中国・韓国補綴歯科学会共催学術大会 (1st Biennial Joint Congress of Chinese Prosthodontic Society, Japan Prosthodontic Society and Korean Academy of Prosthodontics) を名古屋の地で開催することができました。さらに、これらの交流関係を強化すべく、日本・中国・韓国補綴歯科学会の学術交流協定をあらたに結ぶことができました。ここに会員の皆様にご報告申し上げるとともに、本学会の関係各位のご尽力に感謝申し上げます。

さて、この第 117 回学術大会では第 1 回日本・中国・韓国補綴歯科学会共催学術大会と併催となりましたために、大変国際色豊かな学術大会となりました。シンポジウム、特別講演の演者も加えますと、中国 32 名、韓国 61 名、台湾 12 名、アメリカ 1 名、カナダ 1 名、ベルギー 1 名の総勢 108 名の多数の国から多数の方の参加をしていただきました。また、日本・中国・韓国補綴歯科学会の学術交流協定調印式を多数の会員の参加のもと、大会期間中の 6 月 7 日に行いました。今後とも、会員の皆様には国際交流の推進にご協力を賜りますようよろしくお願い申し上げます。なお、今後の予定ですが、次回の第 2 回日本・中国・韓国補綴歯科学会共催学術大会は中国補綴歯科学会 Feng 会長の下で 2 年後 (2010

年) に北京での開催となっておりますので、よろしくお願いいたします。

関連事項として、AAP (アジア補綴歯科学会) 理事会がこの第 117 回学術大会期間中に開催され、来年 (2009 年) 4 月 24~26 日の予定で Shin 会長の下、ソウルで開催予定であることが報告されております。また、中国四川大地震への義援金 (3 万円) について、Feng 会長から中国赤十字に託されたことのご報告をいただいておりますので、追記させていただきます。

### 受賞者紹介

第 117 回日本補綴歯科学会学術大会の課題口演コンペティション優秀賞、優秀ポスター賞 (DENTSPLY Award) 受賞者をご紹介します。

#### 課題口演コンペティション優秀賞

- 1-1-2 ナノジルコニアを用いたオールセラミックブリッジの臨床評価  
三浦宏之 (医歯大)
- 1-1-8 インプラント治療のための小照射野歯科用 CT 装置における画像測定精度についての検討  
吉田有里 (徳島大)
- 1-2-2 三次元有限要素法を用いたインプラントオーバーデンチャーにおける顎骨内応力の解析  
重光竜二 (東北大)
- 1-2-8 顎機能障害発症の寄与因子に関する 5 年間の前向きコホート研究  
田邊憲昌 (岩手医大)
- 1-3-5 自家移植歯の咬合機能に関する研究  
鈴木 祐 (東北大)
- 1-4-2 音声認識による発語機能評価システムを用いた健常歯列者の発語分析  
和田淳一郎 (医歯大)
- 2-3-8 神経筋疾患患者の嚥下障害に対する舌接触補助床の効果  
中島純子 (防衛医科大)
- 2-4-6 間葉系幹細胞の骨分化に関わる転写調節関連遺伝子の探索  
末廣史雄 (広島大)

#### 優秀ポスター賞 (DENTSPLY Award)

- 1-6-4 アクリル系軟性裏装材が総義歯患者

- の咀嚼に及ぼす臨床効果—無作為割付  
臨床試験による検討—  
篠宮摩弥子（日大松戸）
- 1-6-14 全部床義歯の装着が無歯顎者の身体平  
衡に及ぼす影響— 3 軸加速度計を用  
いた歩行分析—  
大久保 舞（医歯大）
- 1-6-23 咀嚼能力改善と顔面軟組織運動変化の  
関連について—インプラント補綴前後  
の検討—  
塚野寛久（九州大）
- 1-6-30 Sclerostine の生物学的骨質評価マ—

- カーとしての可能性—骨成熟過程にお  
ける局在と遺伝子発現—  
完山 学（岡山大）
- 1-6-144 Two Year's Periodontal Condition of  
Abutments with Magnetic and  
Stud-type Attachment Retained  
Over-dentures  
Lingyi Liu (Peking University, China)
- 1-6-151 Rehabilitation for a Patient with  
Ectodermal Dysplasia  
Kyu Kim (Kyung Hee University,  
Korea)

## 平成 20年度日本補綴歯科学会 支部学術大会予定一覧

### 中国・四国支部

日程：平成 20 年 8 月 30 日（土），31 日（日）  
場所：B-Con Plaza（大分県別府市）  
備考：九州支部との合同開催

### 九州支部

日程：平成 20 年 8 月 30 日（土），31 日（日）  
場所：B-Con Plaza（大分県別府市）  
備考：中国・四国支部との合同開催

### 関越支部

日程：平成 20 年 10 月 18 日（土），19 日（日）  
場所：日本歯科大学生命歯学部本館 8 階富士見  
ホール  
備考：東京支部との合同開催

### 東京支部

日程：平成 20 年 10 月 18 日（土），19 日（日）  
場所：日本歯科大学生命歯学部本館 8 階富士見  
ホール  
備考：関越支部との合同開催

### 東北・北海道支部

日程：平成 20 年 10 月 18 日（土），19 日（日）  
場所：18 日・郡山ビューホテル（福島県郡山市）  
19 日・郡山市ビッグアイ（ 〃 ）

### 東海支部

日程：平成 20 年 11 月 29 日（土），30 日（日）  
場所：じゅうろくプラザ（JR 岐阜駅前）

### 西関東支部

日程：平成 21 年 1 月 25 日（日）  
場所：神奈川県歯科医師会館

### 関西支部

日程：平成 21 年 2 月 8 日（日）  
場所：和歌山県歯科医師会館（和歌山市）

### 東関東支部

日程：平成 21 年 2 月 15 日（日）  
場所：オークラ千葉ホテル（千葉市）



## 関連学会報告

### 日本顎口腔機能学会第40回記念学術大会報告

日本顎口腔機能学会第40回記念学術大会は、平成20年4月24日（土）、25日（日）に岩手医科大学創立60周年記念館にて開催されました。当日は142名と多くの先生方のご参加を賜ることとなりました。40回の節目を迎えた今大会では特別講演1題、シンポジウム、学会賞受賞記念講演2題、一般口演7題となりました。

初日に行われた一般口演では、日常臨床への応用を目指した顎運動測定器の開発に関する研究、嚥下機能に関する研究、顎口腔機能に関する筋電図学的研究など歯科臨床には欠かせない発表内容であり、本学会ならではの活発な討議がなされました。

特別講演は、本年3月に退職された坂東永一徳島大学名誉教授に「顎運動研究のこれまでの歩みとこれから」と題し、顎運動研究の変遷を振り返りながら、坂東先生ご自身のこれまでの研究の集大成についてご講演いただきました。さらに、現在開発を進めている咬合可視化装置の現状にも触れながら、咬合や顎運動を解析するために必要なデータの収集が可能になりつつあることが示されました。

第2日目には学会賞受賞記念講演が行われ、はじめに佐々木啓一教授（東北大学大学院）に「顎口腔機能と生体力学」、続いて本学会会長である志賀博教授（日本歯科大学）に「咀嚼機能の客観的評価法」と題してご講演いただきました。

シンポジウムでは「顎機能障害の寄与因子を測る」と題して座長の藤澤政紀教授（明海大学）のコーディネートにより、顎機能障害の研究において活躍されている若手研究者3名による発表が行われました。まず、水口一先生（岡山大学大学院）が「顎関節内障の症状発症、継続と睡眠時ブラキシズムとの関連について」、次に羽毛田匡先生（長野県）が「多元的評価質問票による顎関節症寄与因子の測定」、最後に田邊憲昌先生（岩手医科大学）が「ME機器を用いた顎機能障害の寄与因子を探るための縦断研究」と題して、各先生方の研究データを基に論じられました。

第1日目終了後の懇親会では101名の先生方にご参加いただき、盛岡市北ホテル内のレストラ

ン室にて第40回の記念を盛大に祝うことができました。

ここに2日間にわたる第40回記念学術大会をご報告し、多数のご参会を賜りました補綴学会会員の先生方に厚く御礼申し上げます。

（大会長 石橋寛二）

### 第25回日本顎顔面補綴学会総会



教育研修会

平成20年6月13日（金）・14日（土）の2日間にわたり、北九州市の九州歯科大学講堂において第25回総会・学術大会が鱒見進一総会長のもとで開催されました。学術大会は、一般講演26題、特別講演1題のほか、教育研修会が行われました。

特別講演は、九州歯科大学教授高橋哲先生による「顎顔面領域の再建のための顎骨延長法の応用」と題する講演でした。過去から現在までの仮骨延長法に加えて最新の研究成果についても報告され大変有意義な講演であったと思います。また、教育研修会は「顎顔面補綴治療の変遷—上顎腫瘍—」のテーマで、舘村卓先生（大阪大）座長のもと、『顎補綴治療のための手術での考慮』松浦正朗先生（福歯大）、『上顎腫瘍摘出後の補綴治療』石上友彦先生（日本大）、『当科における上顎顎補綴の変遷—歯科技工の立場から—』山口能正先生（佐賀大）の3名の講師によるシンポジウムがあり、顎顔面補綴治療に対する考え方や姿勢などについて活発な討議がなされました。

（ホームページ・ニュースレター部会 鱒見進一）

### 第19回日本老年歯科医学会学術大会報告

平成20年6月19日、20日に岡山コンベンションセンターにおいて、有限責任中間法人日本老年歯科医学会の第19回学術大会が開催されま

した。大会テーマを「健やかな老いに貢献できる  
歯科医療とは」として、ポスター発表、口演発表  
の他、下記の企画講演等が行われました。大学関  
係の歯科医師をはじめとして、GPの先生方、歯  
科衛生士ならびに看護、介護の現場で活動を行っ  
ている方々など730名以上が参加されて活発な  
議論が展開されました。なかでも市民公開実技セ  
ミナーは新しい試みでしたが、100名近い市民高  
齢者の参加を得て口腔ケアの実技を含めた指導が  
あり、盛り上がりを見せていました。

#### 【本大会の企画プログラム一覧】

特別講演：高齢者の終末期医療と歯科に期待する  
こと

田中紀章（岡山大学大学院医歯薬学総合研究科  
消化器・腫瘍外科学 教授）

教育講演1：後期高齢者医療制度と歯科保健医療  
石井拓男（東京歯科大学社会歯科学研究室 教授）

教育講演2：あったか地域の大家族－富山型デイ  
サービスの14年－

惣万佳代子（NPO法人このゆびと一まれ 理事長）

日本学術会議共催講演：高齢者の歯科医療を確立  
するために

小坂 健（東北大学大学院歯学研究科 国際歯  
科保健学分野 教授）

植松 宏（東京医科歯科大学 高齢者歯科学分  
野 教授）

斎藤一郎（鶴見大学歯学部 教授）

角保 徳（国立長寿医療センター病院 先端医  
療部口腔機能再建科 医長）

シンポジウム（（社）日本補綴歯科学会ジョイント  
企画）咀嚼と認知症と脳機能

平井敏博（北海道医療大学歯学部 咬合再建補  
綴学分野 教授）

渡邊 誠（東北大学大学院歯学研究科 加齢歯  
科学分野 教授）

原 哲也（岡山大学大学院医歯薬学総合研究科  
咬合・有床義歯補綴学分野 准教授）

シンポジウム1（歯科衛生士部門）後期高齢者医  
療と歯科衛生士の役割

－超高齢社会における地域連携ネッ  
トワークの構築－

河本幸子（岡山市保健所 健康づくり課）

藤原ゆみ（特定医療法人万成病院 歯科衛生士）

小橋美由紀（医療法人きむら歯科医院）

高場由紀美（境港市小規模多機能型居宅介護時

の里 管理者）

シンポジウム2 介護保険、後期高齢者医療保険に  
歯科医学的管理を定着していくために

小椋正之（厚生労働省医政局歯科保健課 歯科  
保健医療調整官）

寺岡加代（東京医科歯科大学歯学部 口腔保健  
学科口腔健康教育学分野）

吉田光由（広島市総合リハビリテーションセン  
ター 医療科部長）

角町正勝（社団法人長崎県歯科医師会 専務理事）

木村年秀（三豊総合病院 歯科保健センター 医長）

菊谷 武（日本歯科大学 准教授、附属病院口  
腔介護・リハビリテーションセン

ター センター長）

国際シンポジウム 東アジアにおける老年歯科医療

Prathip Phantumvanit（Faculty of Dentistry,  
Thammasat University, Patumtha-  
ni, Thailand）

Hyun-Duck Kim（Department of Preventive  
and Social Dentistry, Seoul  
National University, Korea）

Yoshinobu Maki（Tokyo Dental College,  
Dept of Hygiene and Community  
Dentistry）

演題公募型シンポジウム1 高齢者のための口腔  
機能評価

林 亮（広島大学大学院医歯薬学総合研究科  
先端歯科補綴学研究室）

綾野理加（昭和大学歯科病院 口腔リハビリ  
テーション科）

高橋賢晃（日本歯科大学附属病院 口腔介護・  
リハビリテーションセンター）

田村文誉（日本歯科大学附属病院 口腔介護・  
リハビリテーションセンター）

演題公募型シンポジウム2 嚥下内視鏡検査  
（VE）に歯科がいかに関わるか

野原幹司（大阪大学歯学部附属病院 顎口腔機  
能治療部）

戸原 玄（日本大学歯学部 摂食機能療法学講座）

尾崎由衛（九州歯科大学 摂食機能リハビリ  
テーション学分野）

演題公募型シンポジウム3 高齢者の終末期歯科  
医療の確立をめざして

藤本篤士（医療法人溪仁会西円山病院 歯科）

菅 武雄（鶴見大学歯学部 高齢者歯科学講座）

岡林志伸（国東市民病院 歯科口腔外科）  
ランチョンセミナー 1 摂食機能療法実戦に向けた NST の取り組み

梶谷伸顕（備前市立吉永病院 外科）  
ランチョンセミナー 2 高齢者肺炎対策～ことに  
内科医からみた歯科治療，口腔ケアの  
重要性

須藤英一（山王病院 呼吸器センター 医長，  
国際医療福祉大学 臨床医学研究セ  
ンター 准教授）

ランチョンセミナー 3 病院歯科における高齢者  
医療への関わりー摂食・嚥下障害を中  
心にー

大野友久（聖隷三方原病院 リハビリテーショ  
ン科歯科 歯科医長）

市民公開講座（共催：岡山県歯科医師会）お食事  
の美味しさを引き出すー調理の工夫，  
自宅で受けるお口のケアとリハビリー

政本信昭（政本信昭クッキングスクール）

山本道代（医療法人青木内科小児科医院 あい  
の里クリニック・歯科）

松尾敬子（社団法人岡山県歯科衛生士会 会長）  
市民公開実技セミナー 健やかなる時も病める時  
も健康長寿の秘訣はお口にあり  
ー歯科衛生士による実技指導を受けて  
みませんかー

小林芳友（病院歯科介護研究会会長，財団法人江  
原積善会積善病院歯科（歯科医師））

松尾敬子（岡山医療センター）ほか 岡山県歯  
科衛生士会

（大会長 皆木省吾）

## 関連学会案内

### 第 38 回（社）日本口腔インプラント学会学術大会

日 時：平成 20 年 9 月 12 日（金）～14 日（日）  
会 場：東京国際フォーラム  
大会長：相浦洲吉（関東・甲信越支部長）

連絡先：〒 351-0022 埼玉県朝霞市東弁財  
1-3-9 イーストアレイビル 4F  
ヤナセ歯科医院（築瀬武史）  
Tel：048-476-0156  
Fax：048-471-0738

E-mail：38th-jsoi@yanase-dental.com  
<http://www.shika-implant.org/>

### 第 14 回日本摂食・嚥下リハビリテーション学会学術大会

日 時：平成 20 年 9 月 13 日（土）・14 日（日）  
会 場：幕張メッセ  
大会長：里宇明元（慶應義塾大学医学部リハビリ  
テーション医学教室）

連絡先：〒 102-8481 東京都千代田区麴町  
5-1 弘済会館ビル  
株式会社コングレ内（担当：山崎・戸  
田）  
Tel：03-5216-5318  
Fax：03-5216-5552  
E-mail：jsdr2008@congre.co.jp  
<http://www.congre.co.jp/jsdr2008/>

### 第 52 回日本歯科理工学会学術講演会

日 時：平成 20 年 9 月 20 日（土）・21 日（日）  
会 場：千里ライフサイエンスセンタービル  
大会長：荘村泰治（大阪大学大学院歯学研究科バ  
イオマテリアル学）

連絡先：〒 565-0871 大阪府吹田市山田丘  
1-8  
大阪大学大学院歯学研究科バイオマテ  
リアル学  
第 52 回日本歯科理工学会学術講演会  
準備委員会  
（準備委員長：寺岡文雄）  
Tel：06-6879-2917  
Fax：06-6879-2917  
E-mail：terachan@dent.osaka-u.ac.jp  
<http://www.soc.nii.ac.jp/jsdmd/riko521.html>

### 日本レーザー歯学会第 20 回記念大会

日 時：平成 20 年 9 月 20 日（土）・21 日（日）  
会 場：大阪大学銀杏会館（学友会館・医療情報  
センター）  
大会長：粟津邦男（大阪大学大学院工学研究科量  
子エネルギー工学講座）



連絡先：〒 565-0871 大阪府吹田市山田丘  
2-1

大阪大学大学院工学研究科  
事務局：櫛引俊宏，工藤雅子  
Tel・Fax：06-6878-6330  
E-mail：JSLD20@see.eng.osaka-u.ac.jp  
<http://55099zzwd.coop.osaka-u.ac.jp/LaserDentistry/>

#### 第 19 回 NPO 法人日本咀嚼学会学術大会

日 時：平成 20 年 9 月 26 日(金)～28 日(日)  
会 場：早稲田大学  
大会長：高西淳夫（早稲田大学創造理工学部総合  
機械工学科）

連絡先：〒 170-0003 東京都豊島区駒込 1-  
43-9 駒込 TS ビル

(財)口腔保健協会コンベンション事業部  
第 19 回日本咀嚼学会学術大会運営事  
務局  
Tel：03-3947-8761  
Fax：03-3947-8873  
E-mail：jsmshp19@kokuhoken.or.jp  
<http://www.kokuhoken.or.jp/jsmshp19/>

#### 第 57 回日本口腔衛生学会学術大会

日 時：平成 20 年 10 月 2 日(木)～4 日(土)  
会 場：大宮ソニックシティ  
大会長：安井利一（明海大学歯学部口腔衛生学分  
野）

連絡先：〒 170-0003 東京都豊島区駒込 1-  
43-9 駒込 TS ビル

(財)口腔保健協会コンベンション事業部  
第 57 回日本口腔衛生学会・総会運営  
事務局  
Tel：03-3947-8761  
Fax：03-3947-8873  
E-mail：eisei57@kokuhoken.or.jp  
<http://pcp.kyorin.ne.jp/dh57/>

#### 第 25 回 (中法)日本障害者歯科学会学術大会

日 時：平成 20 年 10 月 10 日(金)・11 日(土)  
会 場：品川区立総合区民会館 きゅりあん  
大会長：向井美恵（昭和大学歯学部口腔衛生学教  
室）

連絡先：〒 170-0003 東京都豊島区駒込 1-  
43-9 駒込 TS ビル

(財)口腔保健協会コンベンション事業部  
第 25 回有限責任中間法人日本障害者  
歯科学会総会および学術大会準備室  
Tel：03-3947-8761  
Fax：03-3947-8873  
E-mail：jsdh25@kokuhoken.or.jp  
<http://www.kokuhoken.or.jp/jsdh-hp/html/25/>

#### 第 19 回日本歯科審美学会学術大会

日 時：平成 20 年 10 月 12 日(日)・13 日(月)  
会 場：日本歯科大学新潟生命歯学部講堂・アイ  
ヴィホール  
大会長：加藤喜郎（日本歯科大学新潟生命歯学部  
歯科保存学第 2 講座）

連絡先：〒 170-0003 東京都豊島区駒込 1-  
43-9 駒込 TS ビル

(財)口腔保健協会コンベンション事業部  
第 19 回日本歯科審美学会学術大会運  
営事務局  
Tel：03-3947-8761  
Fax：03-3947-8873  
E-mail：jaed19@kokuhoken.or.jp  
<http://www.kokuhoken.or.jp/19jaed/>

#### 第 18 回日本磁気歯科学会学術大会

日 時：平成 20 年 10 月 25 日(土)・26 日(日)  
会 場：彩の国すこやかプラザ（さいたま市）  
大会長：大川周治（明海大学歯学部機能保存回復  
学講座歯科補綴学分野）

連絡先：〒 350-0283 埼玉県坂戸市けやき  
台 1-1

明海大学歯学部機能保存回復学講座歯

科補綴学分野  
第 18 回日本磁気歯科学会学術大会  
事務局 蓮池敏明  
Tel : 049-279-2747  
Fax : 049-287-6657  
E-mail : hasuike@dent.meikai.ac.jp  
<http://www.soc.nii.ac.jp/jmd/meeting/18th/info18-j.htm>

### 第 18 回日本全身咬合学会学術大会

日 時 : 平成 20 年 10 月 25 日(土)・26 日(日)  
会 場 : 日本歯科大学新潟生命歯学部アイヴィ  
ホール  
大会長 : 小出 馨 (日本歯科大学新潟生命歯学部  
歯科補綴学第 I 講座)

連絡先 : 〒 951-8580 新潟市中央区浜浦町  
1-8  
日本歯科大学新潟生命歯学部歯科補綴  
学第 I 講座  
第 18 回日本全身咬合学会学術大会  
準備委員長 佐藤利英  
Tel : 025-267-1500  
Fax : 025-265-5846  
E-mail : toshi@ngt.ndu.ac.jp  
<http://www.soc.nii.ac.jp/jaoh/>

### 第 21 回日本歯科医学会総会

日 時 : 平成 20 年 11 月 14 日(金)~16 日(日)  
会 場 : パシフィコ横浜  
大会長 : 大塚吉兵衛 (日本大学歯学部生化学)

連絡先 : 〒 102-0073 東京都千代田区九段北  
4-1-20 日本歯科医師会内  
第 21 回日本歯科医学会総会準備委員会  
Tel : 03-3262-9214  
Fax : 03-3262-9885  
E-mail : jads2008@convention.co.jp  
<http://www.jads.jp/21stGM/>

### 第 27 回日本接着歯学会学術大会

日 時 : 平成 21 年 2 月 21 日(土)・22 日(日)  
会 場 : 仙台市福祉プラザ

大会長 : 小松正志 (東北大学大学院歯学研究科歯  
科保存学分野)

連絡先 : 〒 980-8575 仙台市青葉区星陵町  
4-1  
東北大学大学院歯学研究科歯科保存学  
分野  
第 27 回日本接着歯学会学術大会事務  
局  
Fax : 022-717-8344  
<http://www.adhesive-dent.com/>

## お知らせ

### 日本義歯ケア学会が誕生



日本義歯ケア学会理事長 細井紀雄

平成 20 年 4 月 1 日に日本義歯ケア学会が誕生しました。

平成 10 年より広島大学と鶴見大学を中心に軟質裏装材研究会を立ち上げ、義歯床用軟質裏装材、義歯安定剤、口腔湿潤剤などの研究を行ってきました。10 年という節目の年を迎え、発展的解消をして本年 4 月 1 日より日本義歯ケア学会へと名称を改めました(理事長 : 細井紀雄[鶴見大学], 副理事長 : 濱田泰三[東北大学])。本会員資格は歯科医師に限らず、コ・デンタルスタッフや関連企業とし、幅広く会員を募集します。第 1 回学術大会(鶴見大学歯学部)は平成 21 年 1 月 24 日(土)に横浜で開催の予定です。皆様の参加をお待ちしております。

### 医療委員会・医療問題検討部会と歯周病学会との協議会

平成 20 年 5 月 23 日、「歯周病罹患患者への補綴歯科治療のあり方」に関する提案書作成協議会

が学会事務局会議室にて開催されました。これには、理事長：平井敏博先生、医療委員会委員長・医療問題検討部会長：石橋寛二先生と、日本歯周病学会から理事長：山田了先生、ならびに歯周病学会医療委員会委員長：吉江弘正先生が出席され、前掲の議題について意見交換が行われました。

主題とするところは、現行の保険診療規則に対する改善要求の方略についてであります。提言を取りまとめてゆく前に、両学会が病める患者さんの立場にたつて、日々臨床のなかで苦慮している実態がそれぞれから紹介されました。それは過日行われたアンケート結果に端的に表れており、その一部を紹介すると、

Q：歯周治療中に補綴歯科治療を行うのが望ましいと思われる症例との遭遇

日本補綴歯科学会 日本歯周病学会

ある 96.2% 98.5%

となり、両学会から非常に高い頻度で同じ指摘がみられました。十分な治療が行えないことがうかがえます。

このことから、両学会は連携を深め、日本の歯科治療がより良き方向を向くよう努力していくことを確認しました。今後は、提案書の作成に向けて両学会がさらに仔細にわたり検討を重ねることになります。そして2009年3月に提案書完成を目指しています。近い将来全国の病める患者と悩める歯科医師にとって有益な提言が生まれると思われま。

今回の補綴歯科学会と歯周病学会の理事長を交えた問題解決に向けた会談は、より視野を広くもった補綴臨床の提言にもつながるとわれ意義深く感じたいです。

(広報・社会連携委員会 川良美佐雄)

#### 会員登録状況 (平成20年6月30日現在)

会員数：6,332名  
(名誉会員：66名、正会員：6,173名、準会員：49名、賛助会員：44社)

#### 専門医登録状況 (平成20年6月30日現在)

専門医：1,162名 (内、指導医732名)  
認定医：77名 (内、指導医2名)

#### 新たな名誉会員

熱田 充先生 (長崎大学大学院医歯薬学総合研究

科摂食機能回復診断治療学分野)

井上 宏先生 (大阪歯科大学欠損歯列補綴咬合学講座)

小林喜平先生 (日本大学松戸歯学部顎口腔義歯リハビリテーション学講座)

濱田泰三先生 (広島大学大学院医歯薬学総合研究科歯科補綴学研究室)

坂東永一先生 (徳島大学大学院ヘルスバイオサイエンス研究部咬合管理学分野)

細井紀雄先生 (鶴見大学歯学部歯科補綴学第1講座)

渡邊 誠先生 (東北大学大学院歯学研究科加齢歯科学分野)

(所属は退職時)

## 編集後記

ニュースレターの担当も2年目に入りました。今回は117回大会をメインに報告いたしました。原稿締切までの時間が短く、執筆を依頼した先生方にはご迷惑をおかけいたしました。無事発行でき安堵しております。有難うございました。

(広報・社会連携委員会ホームページ・

ニュースレター部会長 鱒見進一)

日・中・韓の三国協定が結ばれ、先のインドやAAPを含めてアジアの中で交流が常態化します。国の趣が多種多様であるアジアとのお付き合いはきっと刺激的でしょう。広報・社会連携委員会としてお役に立てればと考え中です。

(広報・社会連携委員会委員長

広報・社会連携部会長 川良美佐雄)

社団法人 日本補綴歯科学会

広報・社会連携委員会

委員長 川良美佐雄

広報・社会連携部会

部会長 川良美佐雄 副部会長 水谷 紘

委員 池邊一典 岡根秀明 貞森紳丞

幹事 小見山 道

ホームページ・ニュースレター部会

部会長 鱒見進一 副部会長 塩山 司

委員 齋藤正恭 坂井貴子 田中昌博

幹事 有田正博

Tel：093-582-1131

Fax：093-582-1139

E-mail：m-arita@kyu-dent.ac.jp

〒803-8580 北九州市小倉北区真鶴 2-6-1

九州歯科大学顎口腔欠損再構築学分野